

# 東西チューンドパワー炸裂! ADVAN CLUB CUP '93走り屋チューナー日本一決定戦

## No.22 G-FIVEスーブラRX-6

### タイヤもノーマルだけど 気合でカバー!

本人いわく「サーキットは初めて」とは思えないまわりを見せた富永選手(一だが、数日前の某AMK走行会に他人の名前を使って出場し、T1を密かに練習していただという噂だ)ノーマルのタイヤもかなりツツつかったようだ。



西日本一決定戦ではブーストを1.3kg/分上げての走行だったが、アフチューエーターのパイプが外れてしまった上、ノーマルのタイヤもかなりツツつかったようだ。

**ドライバー：富永周一**  
西日本一決定戦：11位  
予選タイムアタック：1分55秒883(17位)



エナベタルの車高調にインのサブリンク。レイトはF10kg、R8kg。ホイールはノーマルだ。



オリジナルコンピューターにEVCでブーストを常時1.0kg/分、他にスーパーフローというアメリカ製のマフラー以外はノーマルだ。それでもパワーは400ps。

ライトチューンだし、レースやつてたのは10数年前だけと阪神高速で鍛えた腕はタテじゃないぜ!? スピードガレージG5はさすがに有名だが、いすゞが乗用車生産を中止してからはメーカーのクルマも手がけている。このスーブラはブーストアップと足まわりのライトチューン。「ライトチューンと素人(へ)黄カスターカップジェミニレースに出てたでしょ、やすの注(注)ドライバーでどこまでいけるかですね。本当はGTRの前に出たいんだけど。お金がなくてタイヤもノーマルだし、ま、楽しけりゃいいか」と、若干イジケ気味の富永選手だったが、西日本11位は阪神高速で走り込んでいるおかげか!?

(スピードガレージG5 ☎078-222-3582)

## No.40 OBGS GT-R

### T1に合わせた足が 火を吹くぜ!

いいタイムで日本一決定戦まで進んだが、スタート直後に接触、そのままリタイヤとなってしまった。



1周目でリタイヤというのにミヨに明るいうし上選手。ショップはオリジナルで、前後の2番から10番へと柔らかくしている。オリジナルのスプリングはF7.5kg、R4kgとやはり柔らかめ。タイヤはヨコハマA022(NSXの標準タイヤ)。前後とも225/50-16。ホイールはSSRのMKII-Rだが、面白いことにフロントがJ、リアがJなのだ。アンダー対策でそうしたと言うが、実はJを2本忘れてきたダケという事実は誰もが知っていた。



**ドライバー：井上典也**  
日本一決定戦：リタイヤ(1周目)  
西日本一決定戦：5位  
予選タイムアタック：1分52秒651(6位)



タービンはノーマルだが、オリジナルのブーストコントロールローラーは6000rpmを境に1.0kg/分から1.7kg/分に切り替わる。インジェクターは720cc。インタークーラーはカルソニック、オイルクーラーはHKSだ。パワーは400ps。



これがOBGSのコントロールローラー。500rpm単位で、燃料を+58%から-40%まで調整できる。

さらにOBGSという燃料調整装置を装着。これはアクセルのON/OFFや、500rpmごとに燃料を調整できるというもので、ブーストも6000rpmまでは1.0kg/分で、それ以上だと1.7kg/分に切り替わる。興味深いメカが満載なのだ。 さらにOBGSという燃料調整装置を装着。これはアクセルのON/OFFや、500rpmごとに燃料を調整できるというもので、ブーストも6000rpmまでは1.0kg/分で、それ以上だと1.7kg/分に切り替わる。興味深いメカが満載なのだ。 さらにOBGSという燃料調整装置を装着。これはアクセルのON/OFFや、500rpmごとに燃料を調整できるというもので、ブーストも6000rpmまでは1.0kg/分で、それ以上だと1.7kg/分に切り替わる。興味深いメカが満載なのだ。

(テストラン ☎07746-5-2448)

## No.11 トライアルGT-R

### あ〜あ、西日本一 決定戦中、砂遊びに 示ける!



K27-3470のシングルターボ仕様は、H断面コンロッドに264度/264度のカムを組み、450ps/7000rpmを発生。0-300km/h加速などの開発マシンとしての宿命を背負ったこのクルマも、今では完全にマッキーのT1用オモチャと化しているのだ。



タイム的には全47台中、4位という、さすがT1サーキットの主だったのに、マッキーはよほど砂遊びが好きらしい!

**ドライバー：マッキーボケ原(牧原道夫)**  
西日本一決定戦：リタイヤ(5周目)  
予選タイムアタック：1分52秒134(4位)

「エエなあ、決定戦に出られて、クヤシくてなあ」と嘆く、マッキー。 なんとって、日本一決定戦への出場をかけた西日本一決定戦中、誰よりもこのT1サーキットのコースを知り尽くしているハズのマッキーは、気合の入りが過ぎか、コースアウト。コース復帰できずにその場でリタイヤ。 このクルマには、豪邸が一軒、買える程の開発費をつぎ込んだるんに、アカンワ〜と、けっこ一本気だったよーだ。



自慢の0.01mmプレーキラッペンボ、しかもゴリゴリにやてこの甲斐もあり、タイム的にはトップに内海してはいたものの……。エア抜きが十分じゃなかったためにブレーキが抜けたと、ブレンボもトホホだ。

トライアル大得意のレカDSP-GC、ワイラズ0の4点シートベルト、7ポイントローラーなどにより、かなりレーシーな雰囲気を醸わせている。

(トライアル 南大阪店 ☎0722-54-7039/東大阪店 ☎0729-65-6823)



「いやいや、みんなおちゃらかホイじゃないのよ」 さっきは、すいませんでちゃー

「早くにリタイヤしてしまい、雨さん、コースサイドでたそがれる、の壁。」 「気にしないで下さいよ」と初めはかしくまっていた取反社長も、つい悪ノリして「ガッハッハ」。和気あいあいの走り屋チューナー日本一決定戦だったのでした。

